一般質問

田村正幸

中学生の国際交流事業と姉妹都市提携について

湯沢町は国際社会に対応できる人材育成と異文化の理解、国際的な汎用語である英語力の向上、国際間の町民交流による地域の活性化を目的として国際姉妹都市提携を目指している。

このことを前提として、平成16年度から湯沢中学生をアメリカ・ユタ州ソルトレイク郡マグナへ派遣し、17年度からはマグナから生徒の受け入れを実施している。相互交流も5年経過したが、今後の方向性について伺います。

質問

学生の派遣事業報告会を見ると、すべての湯沢中学生徒に経験させてやりたいと思う。

この事業は大きな成果を上げている一方で、経済的なことや相互受け入れが出来なくて、行きたくとも応募できない生徒がいるのではないか。

教育的格差があってはならないし、機会は公平でなければならない。

これを解消するために、奨学金制度やボランティアのホストファミリー募集などの考えはないか伺います。

町長答弁

多くの中学生に経験させてやりたい気持ちは同じです。

ホームステイによる交流を進めているがマグナでの受け入れは最大16世帯程度で、一世帯に2人としても25、6人が限度で、受け入れを増やせない。これ以上はホテル滞在になる。費用が増大し、観光的な要素が強くなって本来のマグナとの異文化交流が進まない。現在のところ奨学金制度などの考えはないが、16年から始まった事業の見直しを、言われていることも含めて検討してゆきたい。事業は継続する。

質問

姉妹都市提携を前提に、中学生の教育交流が始まって5年が経過した。しかし民間の交流までは至っていない。そのために、国際姉妹都市提携という機運が町民に高まっていない。これまでの経緯を考えると、自治体としての信義、責任、体面から交流をさらに深めて提携を目指すのがよいと思うが考えを伺います。

町長答弁

現在の状況ではすぐにとは行かないが、今後ホームステイによる教育交流を続けて行き、町民の機運が高まってから姉妹都市提携を考えてまいりたい。

教育交流以外の交流について、過去にマグナとも何度か話し合った。マグナは住宅地区で産業は銅山以外にほとんどないことから進まなかった。

今後検討する中で必要に応じて、国際交流協会の設置なども考えていきたい。

マグナとの国際交流事業に奨学金制度等を設立できないか
（昨年のマグナとの交流風景）